

キャリア教育プログラム

～ 「生き方指導」としての「キャリア教育」の充実を求めて ～

1 はじめに

「急激な社会の変化の中で、経済的な豊かさだけでなく心の豊かさを求める個性的な生き方や職業生活に対する考え方など、子どもを取り巻く社会環境は大きく変わった。

社会構造の複雑化や価値観の多様化により、子どもたちの勤労観や職業観も変化し、人生観の確立（生き方）にも迷いをもたらし、自分の将来の夢や生きる目標を定めにくくなってきた。夢や目標のないところに学ぶ意欲が生まれるわけがない。その中において、子どもたちは「主体的に自己実現を図ることの難しさと、それに立ち向かうたくましさが不足しつつある」ことが大きな課題であり、今日的な多くの教育的課題を生む要因がここにあると考える。

ここで、改めて「学校教育の役割」を考えると、教師は子どもと人生を語り、共に考える中で、自己実現への欲求を一人一人の子どもたち自身がいかにつかみ、充足していくか。それをいかにサポート助長していくかは、教育そのものの基本命題であり、「生きる力」をどのように育成するかの課題にほかならない。

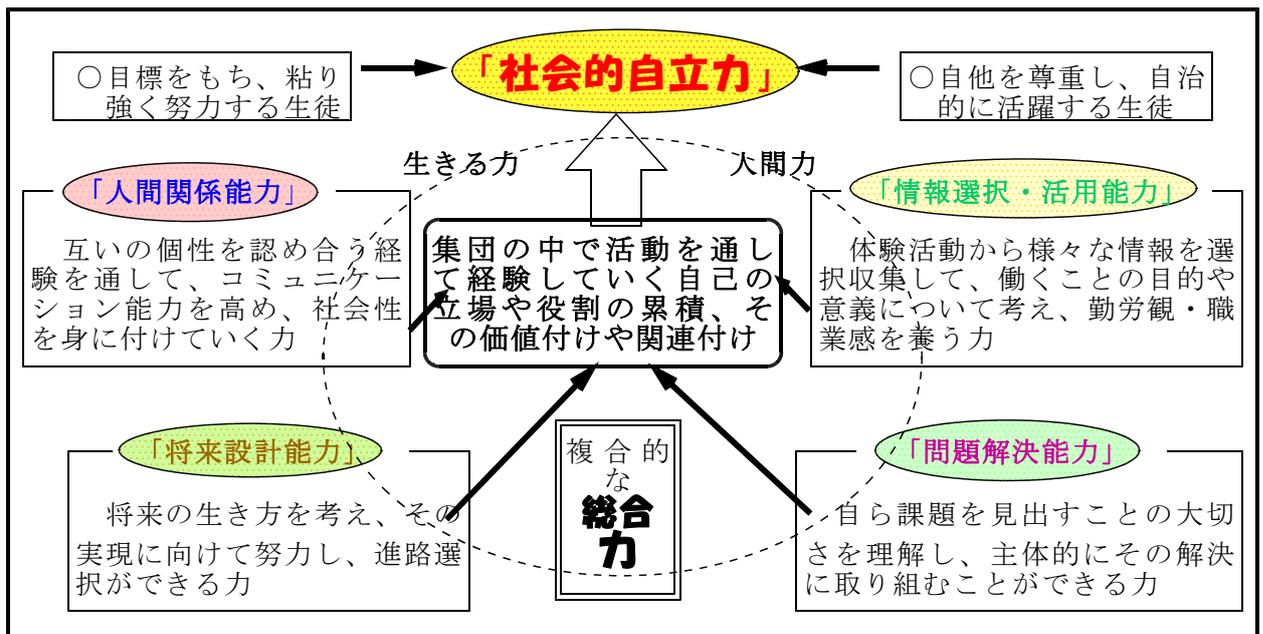
そこで、子どもたちの自己理解と「自己実現を図るための力強い支援」を行うことが、我々教師に一層求められる。」（学校経営方針より）



この今日的な教育課題は、本校においても、学習意欲の低下や卒業後の高校中途退学者の存在など、将来に対する目的意識の低さから生ずる課題が顕著に見受けられる。そこで、「主体的に自己実現を図る力」と「困難に立ち向かうたくましさ」を身に付けさせることが急務であり、これは「社会的自立力」の育成にほかならない。

2 社会的自立力を育てるための4つの能力

子どもたちの自己理解と自己実現を図るための「社会的自立力」を身に付けるには、以下の4つの力が必要であるととらえる。またその関連付けは、以下の構造図で示される。



(1) 『人間関係能力』

【互いの個性を認め合う経験を生かして、コミュニケーション能力を高め、社会性を身に付けていく力】

○不登校や生徒同士のトラブルがあっては安心、安定した気持ちで学校生活が送れない。他を尊重し、自己の個性を発揮しながら、人々とのコミュニケーションを図り、協力して物事に取り組んで欲しい。

(2) 『将来設計能力』

【将来の生き方を考え、その実現に向けて努力し、進路選択ができる力】

○自己と働くことの関係や人生における働くことの価値に気付き、自分の将来に夢を抱いて、明確な意識をもって前向きに意欲的な学校生活を送って欲しい。

(3) 『情報選択・活用能力』

【体験活動から様々な情報を選択収集して、働くことの目的や意義について考え、勤労観・職業観を養う力】

○情報過多の今日において、安きに流されず正しい判断で情報を取捨選択し、自分の生き方の確立を目指してたくましく生きて欲しい。

(4) 『問題解決能力』

【自ら課題を見出すことの大切さを理解し、主体的にその解決に取り組むことができる力】

○夢の実現には、基本的・基礎的な学力を身に付けなければならない。学習活動に主体的に取り組む、学び方や考え方を身に付け、創造的に問題解決を図る力を付けて欲しい。

3 社会的自立力育成の具体的方策

「社会的自立力」を子どもに身に付けさせるには、各教科・領域、学校行事等様々な場面で培われる4つの力を補充・統合する活動・場面を計画的に連続させていく必要がある。つまり個々が集団の中で経験し、発揮していく自分の立場や役割を累積しながら、その価値付けや関連付けを行う教育活動が、「社会的自立力」を育成する。この教育活動こそが「キャリア教育」ある。

○「生き方指導」と「キャリア教育」の必要性

夢は人が生きるための最大のエネルギーであり、すべての教育活動はその基盤となる「社会的自立力」育成の営みである。その営みは「生き方指導」であり「キャリア教育」そのものである。

4 佐和田中学校の「キャリア教育」のとらえ

(1) キャリア教育推進の構想

当校の学校教育における合い言葉は「愛と喜びのある佐和田中学校」である。夢を育てる根底は生徒への愛であり、喜びをもたらすことにある。そして、学校教育における「社会的自立力」の育成は、生徒一人一人に大きな夢を抱かせ、膨らませていくことが基盤となる。

そのためには「生き方指導としての進路指導」の充実こそが急務であり、「キャリア教育」を中核に据えた学校づくりが求められる。

そこで、当校の「キャリア教育」を次のようにとらえる。

○「社会的自立力」の育成の根底になるのは、生徒自身が自分の将来を前向きに受け止めて、「自分の将来が楽しみだ」「自分の将来を真剣に考えよう」とする意欲の高まりである。

「学ぶ意欲」は、将来の夢や希望、目標をもつことによって生まれる。そこで、全教育活動をキャリア教育の視点から体系化し、組織的・計画的な取組をとおして「職業とのかかわりにおいて自分の生き方を考えさせる」ことにより、将来の夢や希望をもたせていく。

(2) 「キャリア教育」の場

「キャリア教育」は、学校の全教育活動をとおして様々な領域にかかわり、全体が調和を保ち、互いが補完し合い、充実・深化させながら指導することが大切である。

【表】「社会的自立力を育成する4つの能力」と学校教育活動との関連

領 域	時間 総合的な学習の 時間	特別活動			部活動	教 科										
		学級活動	学校行事	生徒会活動		国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	英語	道徳	
人間関係能力	○	○	○	○	○	○					○		○		○	○
将来設計能力	○	○	○	○	○		○					○		○	○	○
情報選択・活用能力	○				○	○		○	○						○	○
問題解決能力	○	○		○	○		○	○	○				○			○

総合学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えること。 ・ ボランティア活動などの社会体験、見学や調査、発表や討論、ものづくりや生産活動など体験的な学習。 	
特別活動	学級活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級や学校における生活上の諸問題の解決。 ・ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理などの活動。 ・ 個人及び社会の一員としての在り方に関する事。 ・ 学業生活の充実及び将来の生き方と進路の適切な選択に関する事。 ・ 自分を知り、自分の適性をとらえる。
	生徒会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校生活の充実・改善向上を図る活動。 ・ ボランティア活動。 ・ 部活動。
	学校行事	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勤労生産・奉仕的行事における職業や進路にかかわる啓発的な体験やボランティア活動など。 ・ 自主的・自発的な活動を通して興味や関心を高めさらに伸張しようとする主体的態度を育てる。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己が所属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し、集団生活の向上に努めること。 ・ 勤労の尊さや意義を理解するとともに、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努めること。 ・ よりよい生き方について様々な角度から考えることを通して価値観を鍛え、望ましい進路選択の態度を育てる。 	
各教科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業で、成就感・自己有用感を感じさせる。 ・ 将来の職業生活に必要な知識や技能を身に付けさせる。 ・ 自己の能力や適性を知り、それを伸張する能力を身に付けさせる。 	

(3) 「総合的な学習の時間」について

中学校学習指導要領に示す「総合的な学習の時間」のねらいは以下の通りである。

- ①自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。
 - ②学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。

ここでいう「自己の生き方」を考えることは、当校の「キャリア教育」そのものであり、特に、人や他とのかかわり・人に学ぶ姿勢・人を大切にするという視点からキャリア教育をとらえる。この視点は全教育活動において行うべきものであるが、当校のキャリア教育の推進は、「総合的な学習の時間」を中心として、学級活動や生徒会活動などの生徒活動とのかかわりの中で進める。

したがって、次のように目標を設定し、「総合的な学習の時間」を「キャリア教育」の中核ととらえて推進する。

自己を見つめ、現在や将来について考え、卒業後の進路を主体的に選択し、生きがいのある生活を実現していく生き方について考えることができるようにする。

「キャリア教育」構造図

佐渡市立佐和田中学校

